

〔報告〕

成熟期看護方法における紙おむつへの排泄体験学習を通じて
学生が捉えることができた援助方法

早 崎 幸 子 小 野 幸 子 原 敦 子

The Nursing Care that the Students Could Catch through the Experience Learning
They Excreted to the Disposable Diaper in the Gerontological Nursing

Sachiko Hayazaki, Sachiko Ono, and Atsuko Hara

はじめに

基礎看護学や老人看護学における『排泄の援助』の授業方法として、紙おむつへの排泄体験が取り入れられ、検討した報告が多くなされている¹⁻⁸⁾。これらはいずれも、紙おむつへの排泄を体験することによって、学生の患者への共感的態度の形成と、患者理解への意識の変化についての報告である。筆者らは、学生が紙おむつへの排泄体験を通じて、対象理解が深まるだけでなく、おむつを装着している人の援助方法も見出せるのではないかと考えた。しかし、このような報告を見出すことは出来なかった。

そこで本研究では、『成熟期看護方法』の授業において、学生が紙おむつへの排泄体験学習を通じて、おむつを装着している高齢者に対して捉えることができた援助方法を検討し、本授業におむつへの排泄体験学習を取り入れた意義と課題を見出すことを目的とした。

Ⅰ. 紙おむつへの排泄体験学習の授業の位置づけ

紙おむつへの排泄体験学習は、成熟期看護方法で位置づけられている『老年期生活援助看護方法』で行なった。

この授業の目的は、「加齢に伴う老性変化による老年期にある人の生活の変化に対する反応を理解し、日常生活行動に援助が必要な老人とその家族への看護方法について理解する」である。また、その目標は、1. 加齢に伴う老性変化による老年期にある人の生活機能の変化と生活への影響および、それらに対する反応を学習する、2. 加齢に伴う老性変化による老年期にある人の生

活機能の低下・障害によって、日常生活行動の援助が必要な老人とその家族への看護方法を学習するである。授業の構成は、表1に示すように30時間15回からなり、紙おむつへの排泄体験学習の教示は10回目終了時に行った。

Ⅱ. 学生のレディネス

学生は、本授業以前に地域基礎看護学、機能看護学、育成期看護学、成熟期看護学の概論、地域基礎看護学における、日常生活を支える基本技術1（フィジカルアセスメント、食にかかわる援助技術、排泄にかかわる援助技術）と日常生活を支える基本技術2（病床環境の整備、休養・運動にかかわる援助技術、清潔にかかわる援助技

表1 『老年期生活援助看護方法』の授業構成

回数	学習課題	内容並びに方法
1	老性変化による老年期の人の生活機能の変化と生活への影響およびそれらに対する反応と看護	加齢に伴う老性変化によって体験される生活機能の低下や障害と生活への影響に対する老年期の人とその家族の様々な反応について理解し、老人にとつての健康的な生活を維持する看護の機能・役割について考える。
2・3	生活機能の低下・障害によって日常生活行動の援助が必要な老人とその家族への看護方法	呼吸機能の変化と生活活動調整の援助
4・5		身体運動機能の変化と日常生活動作の援助
6～8		栄養摂取・代謝機能の変化と食生活の援助
9・10		排泄機能の変化と日常生活の援助
11・12		防衛機能の変化と感染予防活動の援助
13・14		感覚機能の変化とコミュニケーション活動の援助
15	試験	

術)など各看護学における方法の一部および専門関連科目である人体の物質交換システム, 人間の環境応答システム, 自己保存・種族保存システムなど, 人体の形態・機能に関する学習を終了している。

また, 学生は入学早期(5月, 7月)に看護学概論演習として, 「保健・福祉・医療の様々な場における看護活動の現状を知り, 看護に対する基本的な理解を深める」ために, 学外演習, 4日間の見学実習(2日間を2クール)を行っている。

Ⅲ. 方法

1. 対象

対象は, 本学2年生79名の学生の中で, レポートを研究対象として使用することに了解を得た74名の学生の記述内容である。

2. 方法

1) おむつへの排泄体験学習の方法

『排泄機能の変化と日常生活の援助』の最終の授業時に紙おむつ(商品名: リフレ, 形態: マジックテープタイプ)を1枚ずつビニール袋に入れて配布し, おむつへの排泄体験期間を6月26日～7月25日とし, 以下のよう
に教示をした。「どのような方法でもいいので, 自宅でおむつへの排泄体験をしてみてください。①おむつで実際に排尿してみてもいいかでしたか, できなかった方はその理由をお書きください。②どんなやり方で排尿しましたか, その理由をお書きください。③おむつに排尿するとき工夫した点がありましたか, お書きください。」

2) おむつへの排泄体験学習を通じての課題

おむつへの排泄体験学習期間が終了後, 『紙おむつでの排泄体験学習を通じて, おむつを装着している高齢者に対して考えられる援助方法を挙げてください』を課題とし, 提出させた。

3. 分析方法

1) 学生の記述内容を熟読し, 援助行為に着目し, その意味内容の異なるものを分割して一記述とした。

2) 記述の意味内容の類似性に基づいて, 小分類, 中分類から大分類へ抽象度をあげ命名をした。

なお, これらの分類・命名に際しては, 真実性と確実性を保証するために, 成熟期看護学講座の教育研究者3名で行い, 合意が得られるまで検討を重ねた。

Ⅳ. 結果

1. 学生が捉えることができたおむつを装着している高齢者に対する援助方法についての記述数

74名の学生が捉えることができた援助方法の総記述数は422であり, 1名の学生が捉えることができた援助方法の記述数は, 2～14(平均5.7, SD=2.0)であった。

2. 学生が捉えることができたおむつを装着している高齢者の援助方法

学生が捉えることができたおむつを装着している高齢者の援助方法は, 【臀部・陰部の清潔を保持する】【自尊心を傷つけない対応をする】【排泄の自立を促す援助をする】【プライバシーを保護する】【個々に合ったおむつの選択と尿漏れ対策をする】【排泄状況を把握する】【環境を整える】【排泄・皮膚のアセスメントをする】【合併症の予防をする】【その他】の10項目に分類された(表2)。

1) 【臀部・陰部の清潔を保持する】は, 61名の学生が記述した102記述数から得られた。これには, 「陰部・臀部の清潔を保持し, 皮膚を保護するために清拭・洗浄をする」「排泄後すぐ交換する」「排泄毎にこまめに交換する」の3分類が含まれた。

2) 【自尊心を傷つけない対応をする】は, 51名の学生が記述した84記述数から得られた。これには, 「自尊心を傷つけない言葉かけや態度をとる」「精神的援助・支援をする」「おむつの装着やおむつでの排泄に伴う気持ちを理解する」「信頼関係を築く」「排泄の告知に感謝する」「価値の転換を促す」の6分類が含まれた。

3) 【排泄の自立を促す援助をする】は, 36名の学生が記述した58記述数から得られた。これには, 「腹圧がかけやすく, 排尿しやすい体位にする」「排泄の自立を促す」「おむつ交換の必要性を説明する」「生活範囲の狭小化や意欲の低下を防ぎ楽しみを見つける」「排泄後の即時交換の必要性を指導する」の5分類が含まれた。

4) 【プライバシーを保護する】は, 34名の学生が記述した55記述数から得られた。これには, 「プライバシーを保護する」「素早い動作で交換する」「同性者により排泄の援助をする」の3分類が含まれた。

5) 【個々に合ったおむつの選択と尿漏れ対策をする】は, 34名の学生が記述した52記述数から得られた。これには, 「個々に合ったおむつを選択する」「おむつをしっ

かり正しく装着する」「尿漏れ対策を講じる」の3分類が含まれた。

6)【排泄状況を把握する】は、29名の学生が記述した34記述数から得られた。これには、「排泄したことを伝えてもらう」「排泄の有無を確認する」の2分類が含まれた。

7)【環境を整える】は、14名の学生が記述した18記述数から得られた。これには、「換気をする」「ベッド・ベッド周囲の清潔を保持する」「室温湿度の調整をする」の3分類が含まれた。

8)【排泄・皮膚のアセスメントをする】は、11名の学生が記述した11記述数から得られた。

9)【合併症の予防をする】は、6名の学生が記述した7記述数から得られた。これには、「定期的に体位を変換する」「感染予防をする」の2分類が含まれた。

10)【その他】は1記述であった。

V. 考察

1. 分類・命名された学生が捉えることができたおむつを装着している高齢者の援助方法の妥当性

おむつを装着している高齢者に対する援助方法として学生が捉えた【臀部・陰部の清潔を保持する】【自尊心を傷つけない対応をする】【排泄の自立を促す援助をする】【プライバシーを保護する】【個々に合ったおむつの選択と尿漏れ対策をする】【排泄状況を把握する】【環境を整える】【排泄・皮膚のアセスメントをする】【合併症の予防をする】の9項目は、高齢者への排泄の援助方法として挙げられている⁹⁻¹¹⁾ものと同じではないが、その内容のすべてを網羅するものであった。おむつへの排泄体験を通して、排泄機能が低下し、おむつを装着せざるをえなくなった高齢者への援助方法の教授内容がより実感して捉えられたといえよう。つまり学習目標2の加齢に伴う老性変化による老年期にある人の排泄機能の低下・障害によって、日常生活行動の援助が必要な老人とその家族への看護方法の一部ではあるが理解が深められたと考える。

おむつへの排泄体験前後の学生の意識調査を行った足立¹²⁾は、おむつへ排泄することに対して、排泄体験前の学生は、第3者的立場にたったイメージ（自立できない人、仕方がないもの、汚いもの）を抱いているが、排泄

体験後には、①おむつ着用体験による精神的苦痛の認識、②身体的不快感の認識、③おむつ着用者に対する看護意欲の向上、④おむつ着用患者に対する共感性を培い患者の立場にたって看護しうるレベルに到達すると報告している。また、小林¹³⁾は、おむつへの排泄体験は、対象理解・対象の看護ニーズの把握に影響していると報告している。今回、本学生がおむつへの排泄体験を通じて捉えることができた援助方法は、これら両者が示す対象の理解を通じて導き出された援助と言えるのではないだろうか。すなわち、おむつへの排泄体験を通じて学生は、対象の理解を深めて共感的になるとともに、様々な不快や不都合・不具合から、それらを解決するための方法を援助として導き出したと考える。

2. 学生が捉えることができた『おむつを装着している高齢者の援助方法』の記述数の差

学生が捉えることができたおむつを装着している高齢者に対する9項目の援助方法において、【臀部・陰部の清潔を保持する】は61名、【自尊心を傷つけない対応をする】は51名が記述していることから、大多数の学生が【臀部・陰部の清潔を保持する】【自尊心を傷つけない対応をする】の援助方法をおむつへの排泄体験を通じて捉えることができたといえる。また、【臀部・陰部の清潔を保持する】は102記述、【自尊心を傷つけない対応をする】は84記述であったことから、学生は、おむつへの排泄体験を通じて精神的苦痛や身体的不快感の認識を最も強く体感したためと考えられる。

一方、【排泄の自立を促す援助をする】【プライバシーを保護する】【個々に合ったおむつの選択と尿漏れ対策をする】【排泄状況を把握する】【環境を整える】【排泄・皮膚のアセスメントをする】【合併症の予防をする】の7項目は、おむつへの排泄体験を通じて、学生の半数以上は捉えることができなかった援助方法であった。これらの7項目は大多数の学生が捉えることができた2項目【臀部・陰部の清潔を保持する】【自尊心を傷つけない対応をする】に比べて、より援助対象が明らかにされている援助方法である。学生がおむつへの排泄体験を通じて、どのような状態の高齢者（痴呆のある人、寝たきりの人、コミュニケーションの困難な人など）を想定して援助方法を考えたかによって、その援助方法の内容に差が生じたためと考えられる。これは、おむつへの排泄体験は、

表2 学生が捉えることができた援助方法の分類とその記述数

大分類 (記述数 ／人数)	中分類 (記述数)	小分類 (記述数)	記 述 例
陰部・臀部の清潔を保持する (102記述／61名)	陰部、臀部の清潔を保持し、皮膚を保護するために清拭・洗浄をする (44)	陰部、臀部の清拭・洗浄をする (22)	・陰部の清潔保持のため清拭や洗浄をする。 ・排泄後そのまま装着していると、臀部の清潔は保たれないので、交換し、臀部と陰部の清拭をする。 ・おむつ交換時、高齢者の不快を取り除き、清潔を保持するため、陰部・臀部の清拭を行なう。 ・自己認識できない人は、少しでも不快に感じる時間が短くなるように気を配り、定期的に清拭をする。 ・高齢者は皮膚が弱ってきているので、ただれや褥創を予防するために清潔を保つ。
		陰部、臀部の清潔を保持する (19)	・寝たままの排泄は臀部の汚染により不快であるだけでなく、皮膚が湿潤するので、臀部を清拭するなどして、清潔を保つ。 ・おむつ装着の高齢者は自分で清潔保持ができないので、精神的・身体的に良い状態を保つために、おむつ交換時などいつも清潔を保持する。
		皮膚保護剤を使用する (3)	・おむつかぶれ等の悪化を防ぐために、薬を塗布する。
	排泄直後交換する (58)	排泄後すぐ交換する (38)	・排尿後、生あたたく気持ち悪かったので排泄後はすばやく交換する。 ・おむつが長時間、濡れた状態は気持ち悪く、皮膚もかぶれやすく、褥創の原因にもなるため、快適に過ごせるようにすぐ交換する。 ・できるだけ早く交換し、清潔を保持し皮膚の保護のために、出来るだけ早く交換する。 ・陰部、でん部の清潔保持のため、排泄後そのままにしておかない。 ・おむつによる湿潤は、皮膚の脆弱化につながるだけでなく、本人も不快なので、排尿・排便後は早く交換する。 ・排泄後すぐに処理する。 ・高齢者は皮膚が弱くなっているため、放っておくと皮膚が荒れたりするため、排泄後できるだけ早くおむつ交換をする。 ・排泄毎に、直におむつを交換する。
			・吸収率の良いおむつでも、1回の排尿で湿って重く不快感があったので、1回の排泄ごとに交換する。 ・排泄を自己認識できる人は、排泄の訴えがある度に、交換する。
			・高齢者の皮膚は外界の刺激に敏感でかぶれやすいため、長時間同じおむつを使用せず、できるだけこまめに取り替える ・不快感の軽減、臭い防止、褥創の予防のために長時間湿った状態が続かないようまめに交換する。
		おむつを定期的に交換する (3)	・おむつかぶれなどに注意し、排泄されていなくてもむれを感じたらできるだけ交換する。
	自尊心を傷つけない言葉かけや態度をとる (42)	自尊心を傷つけない言葉かけや態度をとる (42)	・高齢者の自尊心を損なわないよう言動に気をつける。 ・排尿を教えてくれた時、感謝するなど、自尊心を傷つけないよう言葉かけをする。 ・おむつ交換時などに、高齢者の自尊心が傷つくような言葉かけをしない。 ・交換時に高齢者の自尊心をより傷つけることにつながる嫌な顔や文句は絶対しない。 ・失敗は、高齢者の自尊心を大変傷つけるため、もし失敗があっても、叱ったり、笑ったりしない。 ・子どものように扱うなど、自尊心を失うようなことは言わない。 ・おむつへの排泄後は不快感や罪悪感が残るだけでなく、交換は頼みづらいため、看護者は、早く交換する。 ・おむつが必要な自分自身が受け止められるようにするため、援助者は高齢者のおむつをつけることへの抵抗感や恥じらいを受け止める。 ・おむつを装着している高齢者の方が、申し訳ないとか援助を受けたくない思いにならないよう心配りをする。 ・もれないかなどの不安が生じてくるので精神的な援助をする。 ・おむつの装着を初めは受け入れられなかったり、羞恥心を感じたり、介助する人への負い目を感じたり、おむつでの排泄に不快感を感じたりして、精神的にもとても不安定なので、精神的苦痛を緩和するためにサポートする。 ・本来なら、排泄は自分でトイレに行き、行い、処理するものという思いがあり、おむつでの排泄によるうふがいなさやみじめな思い、世話を受ける援助者に対する羞恥心や情けなさがあるため、これらの軽減のため、精神的な支えになる。 ・羞恥心などをよく理解して援助を行う。
			・自尊心を低下しないようにするため、おむつを装着している高齢者の気持ちを理解する。
			・排泄の世話を受ける羞恥心を汲み、世話しやすい、受けやすい信頼関係をつくる。 ・高齢者が排泄したことを、すぐに伝えられる信頼関係を築く。
			・高齢者の援助者への気兼ねが小さくなるよう、「お手伝いさせてほしい」「排泄したことを教えてくれると嬉しい」という思いを伝える。
			・排泄の自立ができなくなっても、その人の価値が下がるわけではないという価値の転換をしてみよう。
			・排泄する時、その高齢者にとって最も腹圧のかけやすい体勢をとることができるよう援助する。
			・腹圧がかけられるよう、10～30度上体を起こす。
			・体位により尿の出方や量も変わるため、その人が最も排泄しやすい体位を考える。
排泄の自立を促す援助をする (58記述／36名)	腹圧がかけやすく、排尿しやすい体位にする (28)	腹圧がかけやすい体位にする (7)	・腹圧がかけやすい体位の工夫を教える。
		上体を起こす (5)	・恥ずかしさや不安、体勢なども腹圧がかけにくいので、腹圧がかけやすい体勢を考えたり、腹圧をかける練習をする。
		排泄しやすい姿勢にする (5)	・おむつをして臥床したまま排泄を行うのは困難なため、排泄を促すために、おなかを上部から下部へさする。
		腹圧のかけ方を指導する (10)	・セルフケア能力を高めるために可能な部分は行ってもらう。
	排泄の自立を促進する (10)	排泄の告知に感謝する (5)	・尿意を感じることができる高齢者は、おむつに頼らず自力で排泄できるような援助する。
		価値の転換を促す (2)	・排泄の自立が望ましいので、少しでも尿意や便意がある場合は知らせてもらい、トイレでの援助をする。
		通常の排泄スタイルに近づける (1)	・トイレに行く能力が残っている人がおむつの装着によって、その能力を失い、日常生活動作の低下につながるため、おむつがとれてトイレで排泄できるよう目標を持って援助することが必要である。
		トイレでの排泄を促す (7)	・排泄機能を衰えさせないだけでなく、高齢者の精神的な援助のため、可能なら、時間を決めてトイレに座って腹圧をかけるなどの援助で、おむつのみに頼らなくてもよいようにする。
	排泄の自立を促す (22)	ポータブルトイレでの排泄を促す (2)	・トイレで排泄したい気持ちになってもらうため、尿意や便意を感じたら、すぐ排泄できるよう、近くにポータブルトイレを置く。
		患者の要望にあった排泄方法にする (2)	・おむつの装着はとても不快で嫌な思いをさせ、受け入れ難いと思うので、患者の意見を聞き、その人にあった排泄にする。
生活の範囲の狭小化や意欲の低下を防ぎ楽しみを見つける (3)	生活の範囲の狭小化や意欲の低下を防ぎ楽しみを見つける (3)	排泄後の即時交換の必要性を指導する (2)	・本来なら、排泄は自分でトイレに行き、行い、処理するものという思いがあり、おむつでの排泄によるうふがいなさやみじめな思い、世話を受ける援助者に対する羞恥心や情けなさがあるため、これらの軽減のためにおむつ交換の必要を知ってもらう。
			・おむつの装着は、おしりの辺りがふくれて歩き方がこちこちなくなり、他人に知られて恥ずかしい気持ちから家に引きこもりがちにかもしれないが、もれなければ普通に生活できるので、社会参加を促し、少しでも楽しみを見つけれよう促す。
			・自分で交換できない場合、隠さず、早めに交換してもらうように指導をする。

表2つづき 学生が捉えることができた援助方法の分類とその記述数

大分類 (記述数 ／人数)	中分類 (記述数)	小分類 (記述数)	記 述 例
プライバシーを保護する (55記述 ／34名)	プライバシーを保護する (41)	プライバシーを保護する (41)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつ交換の時、プライバシーを守る。 ・おむつ装着は羞恥心を伴うため、必要最低限の露出で交換する。 ・羞恥心に配慮するために、おむつ交換する時は、カーテンなどで仕切る。 ・周囲に人がいる中での排泄はとても苦痛に感じたので、なるべく1人になれるようカーテンを閉めるか部屋の外にいて工夫する。 ・ふみや臭いを気にしなくてもいいような高齢者のプライバシーを守った環境を作りをする。 ・他人に知られることは、自尊心の低下や生きる意欲の喪失などを引き起こす可能性があるため、プライバシーを守る。 ・排泄がコントロールできず、おむつを装着していることに自尊心が傷つので、プライバシーの保持に努める。 ・おむつの装着は、高齢者にとって気持ちの良いものではないため、高齢者の気持ちを考慮しながら、プライバシーの保護などの工夫をする。 ・使用前のおむつも人目につかないようにする。 ・おむつや排泄物の処理時は、人目に触れないようにする。 ・おむつを装着している人の一番嫌なのは、排泄後すぐにおむつを取ることができないことだと思う。排泄したということを伝えられる人ならば、すぐに援助者に伝えることができる環境を築く。 ・おむつ交換を頼みやすいような環境作りをする。
	素早い動作で交換する (11)	素早い動作で交換する (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつでの排泄には羞恥心が伴い、自尊心も傷つくため、これを十分理解して、おむつ交換は迅速に行なう。 ・おむつ装着時、高齢者の恥ずかしいという気持ちを理解して、出来るだけ早く行なう。 ・排泄物の臭いも気になるので、おむつ交換はすばやく行う。
	同性者により排泄の援助をする (3)	同性者により排泄の援助をする (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも陰部や臀部を人に見せることは嫌だと思われ、異性に見られるのは苦痛であると思うので、人権尊重から、できるだけ身近な同性におむつを交換してもらう。
個々に合ったおむつの選択と尿漏れ対策をする (52記述／34名)	個々に合ったおむつの選択をする (26)	サイズの合ったおむつを選択する (13)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつ装着時の不快感は常にあるので、その高齢者に合ったおむつ（大きさ、尿量、むれ防止）を選ぶ。 ・もれたりすると、おむつを拒否したり、ショックを受けるので、その高齢者にあったサイズを選ぶ。 ・おむつから排泄物が漏れ出さないよう、高齢者のサイズにあったおむつを選ぶ。
		状況・状態に合わせたおむつを選択する (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・尿量、回数、行動、日常生活などから、パットタイプか、パンツタイプが考慮し、その人に合ったおむつを選択する。
		下着に近いおむつを選択する (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自尊心を保つために、あまり目立たないおむつを使用する。
尿漏れ対策を講じる (8)	おむつをしっかりと正しく装着する (18)	通気性の良いおむつを選択する (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・膨潤防止のために通気性のよいおむつを用いる。 ・おむつをすることで不快にならないように、ムレのないおむつを選ぶ。
		おむつをしっかりと正しく装着する (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・漏れないようにしっかりと装着する。 ・ベッドや部屋が汚れてはこういしに不快を与えるので正しく装着して漏れを防ぐ。 ・高齢者に安心を与えるために、漏れ防止や腹部圧迫の防止を心がけた適切な装着をする。
		尿漏れ対策を講じる (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつから漏れの心配を解消するために、シーツや寝衣がぬれていないか確認する。 ・排泄の際、もれてしまわないかと心配になるので、布団の上にバスタオルなどを敷く。 ・おむつでの排泄はとても不安なので、吸収パッドをしく。
排泄状況を把握する (34記述／29名)	排泄したことを伝えてもらう (26)	排泄のサインを察知する (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄後、不快であり、皮膚のかぶれの危険性もあるため、排泄したことを伝えてもらう。 ・排泄後、すぐにおむつをとり除きたいと思ったので、排泄後、知らせてもらうようにする。 ・排泄後、介護者に伝えるのは勇気がいり、言いにくいと思うので、本人と介護者の間でサイン作り、直接言葉で伝えなくてもわかるようにする。 ・高齢者からのメッセージをキャッチし、すばやく対応する。 ・おむつへの排泄後は不快感や罪悪感が残るだけでなく、交換は頼みづらいため、看護者は、高齢者の言動・様子からキャッチする。 ・自分で伝えることができないのならば、なるべく早く援助者が気がつけるようにする。
		排泄の有無を確認する (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄後そのまま装着していると、とても不快に感じ、すぐにはずしたくなるのでこまめに様子を観察する。 ・排泄の有無の確認は、個々にあわせて適切な時にする。
		換気をする (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・臭いなどは本人や周囲に不快感を与えるので、窓を開けて換気する。 ・排泄後の臭いが気になるので、換気をする。
環境を整える (18記述／14名)	ベッド・ベッド周囲の清潔を保持する (6)	ベッド・ベッド周囲の清潔を保持する (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場である部屋での排泄は、汚いイメージがあるため、いつでも清潔でいられるように消臭する。 ・寝たきりの人のベッドは食事や睡眠などをする生活の場であるため、寝具の清潔を保持する。 ・おむつだけでなく、シーツや掛け物などの状態もよく観察し、必要に応じて交換することが大切である。
		室温湿度の調整をする (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・室温・湿度が高すぎると装着しているだけでも蒸れて不快に感じるため、害のない程度に調整する。
		おむつの必要性の有無をアセスメントと判断する (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間おむつで排泄することは、残存機能を低下させてしまう危険性があるため、おむつ装着の必要の有無について適切にアセスメントと判断が必要である。
皮膚・排泄のアセスメントをする (11記述／11名)	皮膚・排泄のアセスメントをする (11)	皮膚のアセスメントをする (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつが肌に接する部分は、むれることがあるため、皮膚の観察をする。 ・高齢者は、陰部の皮膚の湿潤が悪化するので、かぶれ痒みに注意する。
		排泄状況をアセスメントする (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間装着による蒸れは、皮膚に悪く、気分的にも気持ち悪いので、排泄周期を把握する。
		処理法の指導 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・使用後のおむつの衛生的な処理方法を指導する。
合併症を予防する (7記述／6名)	感染予防をする (5)	看護者の手洗い (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染の媒介者にならないようおむつ交換の前後は必ず手洗いを行う。
		感染予防 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防
		定期的に体位を交換する (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつを装着した寝たきりの人は動けないので、体位交換をする。
その他 (1記述／1名)	水分補給をする (1)	水分補給をする (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給

実際におむつを装着している高齢者のイメージが具現化されていない場合、特定の個人の状況を想定して体験してみることはできないと述べた小林¹⁴⁾の報告から示唆される。また、これら7項目の援助は、【排泄の自立を促す援助をする】が58記述 (36名)、【プライバシーを保護する】が55記述 (34名)、【個々に合ったおむつの選択と

尿漏れ対策をする】が52記述 (34名)、【排泄状況を把握する】が34記述 (29名)、【環境を整える】が18記述 (14名)、【排泄・皮膚のアセスメントをする】が11記述 (11名)、【合併症の予防をする】が7記述 (6名)であった。このように、おむつを装着している高齢者を具体的に想定できた学生は、1項目の援助に関して1～2の援助を

捉えることができたといえよう。

以上のことから、おむつを装着している高齢者を具体的に想定できる経験をもつ学生と、そうでない学生とでは、おむつへの排泄体験学習を通じて捉えることができる援助方法に相違があり、また想定した高齢者も様々であるため、おむつへの排泄体験学習を通じて捉えることができた援助方法を学生間で共有できる場が必要であろう。それにより、学生一人一人がおむつへの排泄で体験したことから得た援助方法以外の援助方法を獲得できるとともに、自己が捉えた間違いの修正も可能にできであろう。さらに、体験とそれまでに学習した排泄援助方法を統合することもできよう。これらが今後の本授業におけるおむつへの排泄体験学習の課題と考える。

まとめ

本研究は、おむつへの排泄体験をした学生の記述内容を分析し、おむつを装着している高齢者に対して学生が捉えることができた援助方法を検討した。その結果、9つの援助方法が明らかになり、排泄体験学習から援助方法を捉えることは可能であることが示された。しかし、捉えることができた援助方法の記述数や内容は、学生によって差があった。

今後の課題としては、おむつへの排泄体験をさらに有意義にするために、今後のおむつへの排泄体験方法、体験後の授業方法、臨地実習における活用方法など検討をしていく必要があろう。

引用・参考文献

- 1) 増田安代：紙おむつでの排尿体験学習の効果 学生の意識変化に関する一考察，看護展望，23(12)；98-105，1998.
- 2) 吉留厚子：健常者のおむつ排泄に関する調査（その1）前後の気持ちの変化を知る，看護展望，24（10）；101-105，1999.
- 3) 中村弥生：老人看護を考えるための体験学習 看護学生のおむつ内排尿体験学習を通して，京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要，4；7-11，1994.
- 4) 平林千佳里：床上排泄体験学習の評価 学生の反応の分析，日本看護研究学会雑誌，17（4）；71，1994.
- 5) 渡部節子：床上排尿の患者体験学習の事態と学生への影響，日本看護学会誌，3（1）；20-27，1994.
- 6) 足立みゆき：看護学生のおむつ着用による体験学習に関する研究 おむつ着用による排泄体験を通して，鳥取大学医療技術短期大学部紀要，26；45-50，1997.
- 7) 松村三千子：老人看護学授業展開の工夫 紙おむつ排泄体

験学習と学習効果に関する一考察，看護教育，41（5）；374-377，2000.

- 8) 土井英子：新見女子短期大学看護学科卒業生の床上排泄の援助における意識と実態 排泄の援助がケアとなるために，新見公立短期大学紀要，20；77-85，1999.
- 9) 岩坂信子：失禁，便秘など排泄に関する問題とその対応，臨床老年看護論 生きている現場，初版；52-58，日本看護協会出版会，2001.
- 10) 佐藤弘美：排尿の自立を助けるための介護方法の指導，高齢者を支える看護・介護の知識と技術，（佐藤弘美，野口美和子編），初版；85-98，日本看護協会出版会，1999.
- 11) 太中千代子：床上生活の排泄の援助，看護 MOOK No.28 排泄と看護，（太中千代子，馬場一雄編），初版；87-89，金原出版株式会社，1988.
- 12) 前掲6).
- 13) 小林陽子：老人看護学実習におけるオムツ体験学習の学びの分析，山梨医科大学紀要，17；84-90，2000.
- 14) 前掲10).

（受稿日 平成14年2月25日）